

令和5年度

町政執行方針



虻田郡洞爺湖町

<はじめに>

洞爺湖町議会令和5年3月会議にあたり、町政運営に対する私の所信の一端と令和5年度予算における主要な施策についてご説明申し上げ、議員各位をはじめ、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私が町長に就任した昨年4月から、早1年が過ぎようとしています。この間、新型コロナウイルスの感染拡大から、約3年が経過し、町民や事業所の皆さまが頑張っている姿を目の当たりにし、改めて、この町の魅力を高め、住んでいる私たちが「希望を持ち、安心して暮らせるまち洞爺湖町」を目指すことが、町政を担う私の責務であると感じております。

これまでの町政運営にあたっては、議員各位はもとより、多くの町民や各種団体の皆さまとの懇談などを通じ、将来のまちづくりの指針である「第2期洞爺湖町まちづくり総合計画」を基本とし、選挙公約に掲げたビジョン「子どもから高齢者まで誰もが幸せを感じるまちづくり」の実現に向け、全力で取り組んでまいりました。

当町を取り巻く環境は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある一方、エネルギー・食料価格の高騰など、町民生活や地域経済に大きな影響を及ぼし、さらに厳しさが増しております。

また、予想を上回る早さで進行する人口減少や少子高齢化の課題では、昨年、全国の出生数が80万人を割り込む見通しとされ、社会機能を維持できるかどうかの瀬戸際の状況におかれていると言われております。

当町においても人口減少の抑制に向けては、依然として厳しい状況が続いておりますが、子ども子育て施策の充実から働く世代の転出を抑制し、さらには定住人口の拡大につなげて持続可能なまちづくりを進めてまいります。

当町は本年1月、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行なったところでありますが、世界に誇る優れた自然環境を次世代に引き継ぐためにも、さらなるカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

また、新年度において、都市計画マスタープランなど重要な計画策定と地域公共交通体系の再編に向けて議論をスタートいたします。

町政運営においては、社会保障関係費や公共施設の老朽化対策費等の増加に加えて、急速な物価等の上昇による経費が増加する一方、人口減少などに伴い、今後は地方交付税等の収入の減少により、基金を取り崩す財政運営となることが見込まれます。

また、高度化、複雑化する行政需要を的確に対応できる持続可能な行政組織体制を構築していかなければなりません。

次世代に課題を先送りしないよう、「洞爺湖町行財政改革推進方針2022」に基づき、業務の最適化及びスリム化と組織改編を進め、人口規模に見合った持続可能な行政運営と健全な財政運営に努めてまいります。

<令和5年度予算編成の考え方>

それでは、令和5年度予算について申し上げます。

令和5年度の一般会計予算でございますが、経常経費は燃料費高騰による電気料金の値上がりを受け、公共施設の光熱水費が昨年度を大幅に上回る大変厳しい状況となる中、子育て支援対策、ICT教育環境の充実、道路整備や街路灯のLED化など生活基盤のイン

フラ整備、老朽化した公共施設の長寿命化、第一次産業を中心とした各産業の振興など、総額として前年度比7億3,900万円増の77億900万円としたところでございます。

後年度の財政負担を軽減するため、合併地域振興基金、公共施設等整備基金を活用し、歳入不足については財政調整基金から財源補てんすることといたしました。

歳入は、町税が企業の設備投資の増加、観光客の入込が回復傾向にあり、特に外国人旅行客が戻りつつあることなどから増額を見込み、地方交付税は、前年度の交付実績や国の地方財政計画における一般財源総額の伸び率等を勘案し増額を見込んでおります。

町債は、高校生通学費等助成事業、西いぶり広域連合廃棄物処理施設建設事業などにより増額となっております。

歳出では、高校生通学費等助成など各種子育て支援の拡充、中古住宅取得の支援制度の創設、三豊霊園内にある合葬墓の整備、水産雑物一時堆積場整備補助金などを計上いたしました。

継続事業は、本庁舎屋上防水改修など公共施設の長寿命化、町道整備、西いぶり広域連合の新中間処理施設建設費負担金などを計上しております。

特別会計は、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計で給付費の減、後期高齢者医療特別会計は後期高齢者医療広域連合納付金の増を見込んでおります。

公共下水道事業特別会計、簡易水道事業特別会計は、新年度から企業会計へ移行後の予算を計上しております。

水道事業会計は、料金収入の減少と動力費に係る電気代高騰などで支出が大幅に増加し収支不足が見込まれることから、一般会計からの補助金を計上したところでございます。

各会計の予算総額は以下のとおりとなっております。

一 般 会 計	77 億 900 万円	前年度比	10.6%増
国民健康保険特別会計	12 億 3,956 万円	前年度比	4.0%減
介護保険特別会計	11 億 9,385 万円	前年度比	0.6%減
後期高齢者医療特別会計	1 億 8,130 万円	前年度比	5.9%増
水 道 事 業 会 計			
収益的収支	2 億 9,636 万円	前年度比	14.5%増
資本的収支	2 億 43 万円	前年度比	15.7%減

簡易水道事業会計

収益的収支	8,680万円	前年度比	120.9%増
資本的収支	6,049万円	前年度比	39.8%減

公共下水道事業会計

収益的収支	5億8,804万円	前年度比	111.2%増
資本的収支	6億6,217万円	前年度比	67.5%増

次に、令和5年度予算の主な施策と取り組みを、まちづくり総合計画の施策体系に基づきご説明申し上げます。

(定住を促す住みよい環境のまちづくり)

まず、定住を促す住みよい環境のまちづくりであります。

人口減少が進む中、将来人口を見据え、長期的視点に立ったまちの将来像を明確にし、様々な社会構造変化、自然災害リスクがある中、持続可能で活力あるまちづくりを進めるため、「都市計画マスタープラン」の策定に取り組んでまいります。

道路・交通網の整備については、町民生活の利便性を確保する上で重要な生活道路であることから、安全で安心な道路環境の維持保全に努めるとともに、住みよい環境整備に向け、虻田地区及び洞爺地区の計画的な町道の整備を進めてまいります。洞爺湖温泉大通り線については、整備済み区間との街並みの統一化に向けて道路改良工事を実施するほか、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの一環として、街路灯のLED化に取り組みます。

また、安全性や利便性、機能性の向上と国土強靱化につながる国道・道道の整備要望を引き続き行ってまいります。

健全性の低い橋梁については、「洞爺湖町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき修繕工事を行うほか、経年変化による橋梁の健全度合いの把握のため、橋梁点検を継続して実施してまいります。

除排雪対策については、老朽化した除雪ドーザーの更新を図るとともに、直営と民間委託を併用した除排雪体制を維持し、降雪時における除排雪を適切に実施いたします。

地域の足として重要な路線バスやコミュニティ交通については、コロナ禍の影響に伴う利用者の減少や、原油価格の高騰等により各事業者の経営が一層厳しくなっています。「洞爺湖町地域公共交通計画」に基づき、持続可能な移動手段の確保に向け取り組みを推進してまいります。

消防・防災体制については、今後も引き続き警戒が必要となる有珠山噴火災害や津波災害の備えとして、避難防災訓練の実施や自主防災組織の設立を促進し、自助・共助・公助による連携を図りながら、町民の皆さまの防災・減災に対する地域防災力の向上に努めます。また、様々な自然災害に備え、年次計画に基づいた避難所の防災備蓄を進め、町民の安全・安心の確保に努めてまいります。

上水道・簡易水道事業については、令和5年度、入江地区の配水管布設替工事や上水道施設及び簡易水道施設の監視制御設備の更新工事を実施し、施設の適正管理に努めます。

下水道事業については、公有水域の水質及び生活環境の保全を図

るため、引き続き下水道施設の適切な管理を行っていくとともに、虻田下水終末処理場及びとうやクリーナップセンター等の改築更新工事を行い、施設の長寿命化に努めてまいります。

なお、公共下水道事業及び簡易水道事業については、令和5年度から企業会計へ移行いたします。水道事業会計と併せて、今後も一層の効率的な管理と収納率の向上に努め、経営の健全化を図ってまいります。

洞爺湖町におけるデジタル化の推進は、児童手当等の子育て関連や介護認定等の申請をオンライン化することにより、住民ニーズに合った行政サービスの提供と利便性の向上を図るとともに、デジタル人材の育成・確保に努めながら、庁内の業務系システム並びに機器等を更新することで、行政事務の効率化・適正化、ペーパーレス化を推進します。

廃棄物処理については、西いぶり広域連合による広域処理体制の下、適正処理に努めるほか、令和6年10月の本格稼働を目指し、新中間処理施設の整備を進めます。

また、更なるごみの減量化を推進するため、引き続き、ごみの発生抑制や資源の再利用、ごみの分別徹底による再資源化を図り、循環型社会の継続に努めてまいります。

火葬場の利用については、町民が「伊達火葬場」を利用する際の負担軽減と併せ、「伊達火葬場」利用の円滑な移行に努めてまいります。

霊園管理については、今後も適正な維持管理を図るとともに、合葬墓の整備では、「洞爺湖町合葬墓整備計画」に基づき、令和6年度当初の供用開始を目指し、建設に着手してまいります。

交通安全対策については、全国的に高齢者の運転による交通死亡事故が多発していることから、交通安全町民運動推進委員会を中心に、各関係団体と連携・協力し、交通安全運動を推進します。また、伊達地区交通安全協会と西胆振1市3町が共同で実施している運転免許証自主返納支援事業を引き続き実施してまいります。

防犯対策については、今後も関係機関・団体と連携し防犯活動を

推進するとともに、「洞爺湖町見守り隊」については、引き続き、隊員の獲得に努めてまいります。

また、訪問や電話での悪質な勧誘、インターネットの普及に伴う通信販売や有料サイトの架空請求、さらには振り込め詐欺などが増加していることから、今後も各関係機関との連携を図り、消費者被害の未然防止に努めてまいります。

近年、気候変動を背景とする異常気象により、平均気温の上昇や大雨、台風等による被害、農作物や生態系への影響が確認されており、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予測されています。町民一人ひとりが今まで以上に地球環境に強い危機感を持ち、カーボンニュートラルの実現に向け、町民・事業者・行政が一体となって取り組みを進める体制を構築してまいります。

景観の保全と緑化の推進に向けては、町ぐるみの花いっぱい運動を展開し、花と緑あふれる環境の充実を図る取り組みを進めます。

住宅環境については、「洞爺湖町営住宅等長寿命化計画」に基づき、

経年劣化した町営住宅の改修工事を実施するほか、適切な維持管理に努めてまいります。

移住・定住については、チャレンジショップ支援事業・空き家バンクを活用した住宅情報や町内企業の求人情報の周知に加え、新たに中古住宅取得支援事業を行い、空き家の利活用を進めるとともに、移住希望者・起業希望者に対し、定住を見据えたサポートを継続して推進してまいります。

また、町民の方々がホームページで直接、町長へ多様な意見・メッセージを投稿していただき、今後の移住・定住施策へとつなげてまいります。

地域おこし協力隊については、洞爺湖町の魅力や地域の情報などを発信してもらうとともに、隊員の起業・就業・定住に向けた支援を継続して行ってまいります。

（誇れる地域特性を活かしたまちづくり）

次に、誇れる地域特性を活かしたまちづくりであります。

観光振興においては、新型コロナウイルス感染症の影響により激減していた観光客も徐々に戻りはじめ、賑わいを取り戻しつつありますが、町内全体の経済は、未だに厳しい状況にあります。

このような状況下ではありますが、地域の自然や文化を体感する旅のスタイルが世界でも注目を浴び、本年9月に「アドベンチャー・ワールドサミット」が北海道を舞台として開催されます。当町が世界に誇る「洞爺湖有珠山ジオパーク」や世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一角を担う「入江貝塚・高砂貝塚」といった観光資源に付加価値をつけ、魅力ある観光資源として世界に発信するため、観光協会や関係団体と連携して取り組んでまいります。

さらに、洞爺湖温泉街などを花と緑で彩り、観光客や町民の皆さまへおもてなしと癒しの空間を提供するほか、観光誘致活動においては、コロナ禍からの社会経済活動の正常化を見据えて外国人観光客の誘客プロモーションなど、観光協会や近隣自治体、関係機関と連携し、積極的に取り組んでまいります。

地域の特性を活かした特色あるイベントの一つである洞爺湖マラソンは、4年ぶりにフルマラソンを開催いたします。

また、洞爺湖マンガ・アニメフェスタなどの開催を支援するとともに、アフターコロナに向けた賑わいある観光地づくりを進めてまいります。

さらに、町内小中学校の児童生徒を対象としたジオパーク体験や中島の自然学習を行い、地域の魅力に対する誇りや愛着を高める取り組みを実施してまいります。

「洞爺湖有珠山ジオパーク」は、本年、4年に1度の「ユネスコ世界ジオパーク」の再認定審査となることから、推進協議会を構成する1市3町の連携のもと再認定に向けた取り組みを進めます。

加えて、洞爺湖町独自の取り組みとして、町の風景や生き物の映像、大地の成り立ちや特性を科学的根拠に基づいてまとめた「(仮称)洞爺カルデラ データベース ～時の扉～」をインターネット上で公開し、国籍を超え人々に感動と共感を呼ぶ「大地の物語」を、教育の場はもとより、さらに広く世界に向け発信してまいります。

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、入江・高砂貝塚の考古学的価値や景観の保全を図り、竪穴住居復元施設の補修などの環境整備、ボランティアガイドの育成と充実など、世界遺産への理解促進や受け入れ態勢の強化を図るとともに、関係団体や関係自治体とのさらなる連携を深め、世界遺産を軸とした文化観光へとつなげる取り組みを進めてまいります。

洞爺地区の振興については、年次計画に基づき、財田地区の自然遊歩道等の再整備を進めており、今年度は遊歩道及び木橋の改修を実施してまいります。

また、旧ホテル洞爺サンシャインについては、地域の景観対策として解体に向けて事業を進めてまいります。

地域特性を活かしながら発展してきた旧虻田町と旧洞爺村から続く洞爺湖町の歴史を記録として後世に残すため、新たな町史の編纂・発刊に向けて準備を進めてまいります。

（競争力のある地域に根ざした元気産業のまちづくり）

次に競争力のある地域に根ざした元気産業のまちづくりであります。

農業振興については、生産性の向上が期待できるスマート農業の推進とともに、高品質・高収益な作物の生産拡大に必要な農地の基盤整備や農業用水の安定供給を図るため「国営畑地かんがい排水事業」及び「道営土地改良事業」の支援を引き続き実施します。

JAとうや湖で取り組んでいるクリーン農業推進のために必要な土壌分析も継続し、消費者に対しても安全・安心な洞爺湖町産の農畜産物のPR活動を進めてまいります。

また、農業・農村の多面的機能の維持を図るための地域共同活動を支援するほか、有害鳥獣による農作物等への被害の低減に向け、ドローンを有効活用した捕獲事業や捕獲技術の普及に努めてまいります。

畜産業については、国内での度重なる高病原性鳥インフルエンザの発生により、発生地域では甚大な被害を受けていることから、伝

染性家畜疾病の発生予防及びまん延防止に向けた農業者に対する飼養衛生管理基準の徹底を図ってまいります。

林業については、引き続き豊かな森づくり推進事業による民有林整備の支援や、町有林の整備を行なっていくとともに、森林環境譲与税を有効活用した森林の整備・保全及び木材利用の促進や木育活動につながる取り組みを進めてまいります。

水産振興については、基幹漁業であるホタテ養殖業は、平成28年から発生しているホタテ貝のへい死は現在は回復傾向にありますが、成貝へのザラボヤやイガイなどの雑物が依然として付着しており、雑物処理に係る費用負担が増加傾向にあります。また、新型コロナウイルス感染症や原油・原材料等の価格高騰の影響を受け、漁業経営は非常に厳しい状況にあるため、引き続き、水産雑物の処理費などの支援を行ない、漁業経営安定につながる取り組みを実施してまいります。

商工振興については、住宅リフォーム支援事業等の拡大を図り、

地元での消費拡大と建設工事の増加による地域経済の活性化を図ります。また、町内中小企業の経営安定化を図るため、引き続き、商工会に対し運営費の支援を行ってまいります。

（心豊かに子どもを育むまちづくり）

次に、心豊かに子どもを育むまちづくりであります。

子どもへの支援や子育て環境の改善は、人口減少を抑制する上でも、重要な位置づけとなります。

この洞爺湖町で子育てのしやすさを実感できるよう子育て世代への支援の充実を図り、未来を担う子どもたちが笑顔で安心して成長していける環境づくりに努めてまいります。

また、保育環境や教育環境の充実については、教育委員会と連携を図りながら取り組みを推進してまいります。

妊婦が安心して子どもを産み、子どもが健やかに成長することができるよう、切れ目のない支援の提供に努めてまいります。

医療機関と連携し、妊娠判定料や不妊治療費などの助成を継続し、

出産を迎える妊婦に対しては、相談による支援や出産サポート給付金の支給による経済的支援を図ります。

また、産婦の心と体の回復や子育てが不安とならないよう、産後ケア事業を中心に産後の支援に努めてまいります。

育児支援として、出産祝金やおむつ用ごみ袋、育児用品の支給を継続実施し、育児期の相談による支援や子育てサポート給付金の支給による経済的支援を図ってまいります。各種健診、無料によるインフルエンザ予防接種などを継続実施し、子どもが健やかに成長するよう支援に努めてまいります。

また、栄養教室による健全な食生活の実践や生活習慣病の予防などに努めるとともに、子育てサロンを開放し母子交流に努めてまいります。

子ども医療費助成事業については、洞爺湖町の将来を担う子どもたちが健やかに成長するための支援策として、医療費の無料化を18歳まで拡大して実施してまいります。

(やさしさあふれる健康福祉のまちづくり)

次に、やさしさあふれる健康福祉のまちづくりであります。

町民の皆さまが心身ともに健やかに暮らしていくため、医療などを安心して受けることができるように努め、日常生活に支援を必要とする方に寄り添いながら、関係機関との連携による取り組みに努めてまいります。

医療体制については、町内の医療機関と連携し、地域医療の確保に努めます。また、町内の一次救急並びに広域連携による救急医療体制への支援を継続いたします。

健康づくりについては、基本健診の対象年齢を引き下げ、若い年齢層からの疾病予防や重症化予防に努めます。健康教室や健康相談を継続し、健康を守り支え、長く元気に活躍できるよう努めてまいります。

健康・医療における予防対策として、新型コロナウイルス感染症

については、町民の皆さまに基本的な感染予防に努めていただくとともに、今後の国の動向を注視し、新型コロナワクチン接種について適切に対応してまいります。

また、高齢者のインフルエンザワクチンの接種費用の助成を継続するとともに、歯科健診や歯周疾患健診についても継続し、健康の維持に必要な口腔ケアの推進に努めてまいります。

地域福祉においては、多様化する福祉ニーズに対応した活動の活性化や円滑化を図るため、社会福祉協議会の機能充実、事業支援に努めてまいります。

地域食堂が行う、子どもから高齢者まで世代を問わず、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりと、食材の無料提供活動に対し、支援を継続してまいります。

また、アイヌ文化の伝承者を育成する事業や、アイヌ文化を感じていただく体験教室等を行うほか、地域の交流拠点としてのウトウラノの活用も推進し、さらなる文化の伝承と理解・尊重を深めてまいります。

高齢者福祉については、日常生活の支援が必要な一人暮らしの高齢者や高齢者世帯、さらには認知症の高齢者も年々増加しております。

高齢者が、安心して住み慣れた地域で自立した日常生活が送れるよう、計画最終年を迎える「第8期洞爺湖町高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に基づく各種施策について、関係機関と連携して推進するとともに、「第9期洞爺湖町高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定いたします。また、高齢者の医療、介護など生活支援に資する「地域包括ケアシステム」の構築に努め、地域住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指してまいります。

障がい者福祉については、すべての障がいのある人が安心して暮らせるよう町内の社会福祉法人や障がい児発達支援事業所と連携して推進するとともに、「第3次洞爺湖町障がい者基本計画」並びに「第6期洞爺湖町障がい者(児)福祉計画」が令和5年度で計画期間の満了を迎えることから、それぞれ計画を策定いたします。

また、手話奉仕員の養成や小学校での手話の学習会を引き続き実

施してまいります。

国民健康保険については、財政運営責任主体の北海道と協力・連携し、安定運営に努めます。

また、「洞爺湖町国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画」並びに「洞爺湖町国民健康保険第2期保健事業実施計画」が令和5年度で計画期間の満了を迎えることから、それぞれ計画を策定し、引き続き、北海道や北海道国民健康保険団体連合会とともに特定健診の受診率の向上、医療費の適正化などに努めてまいります。

後期高齢者医療保険は、今後も北海道後期高齢者医療広域連合と連携し、制度の安定的な運用を推進してまいります。

（人が輝きと賑わいを生み出すまちづくり）

最後に、人が輝きと賑わいを生み出すまちづくりであります。

地域コミュニティについては、洞爺湖町自治会連合会や地域の皆さまと協力・連携し、地域担当職員の活用を図りながら、引き続き、

町内のコミュニティ活動を支援していくとともに、活動の拠点となる集会所・コミュニティセンターの維持管理を行ってまいります。

また、元気な高齢者が、健康を維持しながらますます活躍されるよう、社会福祉協議会が実施している、有償ボランティア事業などの普及に努めるとともに、高齢者事業団や地域サロンの開催等の支援にも努めてまいります。

ふるさと納税の拡大に向けた取り組みとして、洞爺湖町の魅力である海産物や農産物、観光資源などの情報を全国へ発信してまいります。また、産業団体等と連携し、新たな返礼品の開発や旅先でも納税できる仕組みづくり等の環境整備を推進することにより、認知度の向上及び返礼品・リピーターの確保など基盤強化を図ってまいります。

姉妹都市・友好都市との交流事業については、引き続き実施し、交流を深めてまいります。

国際交流として取り組んでおります英国ボランティア青年受入事

業については、コロナ禍の影響により受入を中止しておりましたが、今年度においては、受入れ可能な状況等を見極めながら、関係機関と調整を図り事業を進めてまいります。

<むすび>

以上、令和5年度の町政執行にあたって、私の基本的な所信を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により、町民の皆さまの暮らしや働き方など急激な変化を余儀なくされました。

コロナ禍など不透明性が高い時代では、今まで以上にビジョンを明確にすることが重要です。そして従来のノウハウや知識に頼るだけではなく「新しいことを常に学ぶ姿勢」が求められます。

「成功」の反対は「失敗」ではなく「行動しないこと」であり、行動の先送りは時間と選択肢を減少させます。

その上で、これまで経験したことのない課題に対応していくためには、迅速な決断力や行動力を発揮するだけでなく、将来の見通しやリスクを冷静な視点で見つめ直しながら進めていくことも忘れて

はいけないと考えます。

コロナ禍を契機とし、これまでの固定概念を破り、行政のデジタル化や温暖化対策と経済発展の両立に向けて取り組まなければなりません。

引き続き、変化に強いまちづくりに向け、全力で町政運営に取り組んでまいりたいと存じます。

「住んでいる私たちが楽しめる、住みやすい町、洞爺湖町へ、地域経済の発展と心の豊かさが融合する持続可能なまちづくり」を推進してまいります。

今後も町民の皆さま、議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。